

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2020.3) 令和元年度:65.

終末期の消化器がん患者・家族の在宅療養移行へ向けた意思決定支援
において看護師が大切にしていることとその背景

林 恵梨花, 上野 毬愛, 鈴木 歩実

終末期の消化器がん患者・家族の在宅療養移行へ向けた 意思決定支援において看護師が大切にしていることとその背景

旭川医科大学病院 6階西ナーステーション

○ 林恵梨花 共同研究者：上野穂愛 鈴木歩実

はじめに

わが国の高齢化率は年々増加し、国民の70%以上は終末期を自宅で療養することを望んでおり、近年在宅医療への移行が増加している。消化器の終末期がん患者は病状悪化のリスクに加え、絶食管理となり自宅でも医療処置が必要となる場合があるため、患者・家族は在宅療養に不安や迷いが生じることもある。

目的

消化器の終末期がん患者・家族へ焦点を当て、在宅療養へ向けた意思決定支援において看護師が大切にしていることとその背景について明らかにしたいと考えた。

方法

在宅療養移行へ向けた意思決定支援を経験したことのある看護師5名を対象に半構成的面接を実施した。対象者が語った内容からコードを抽出、カテゴリー化し分析した。

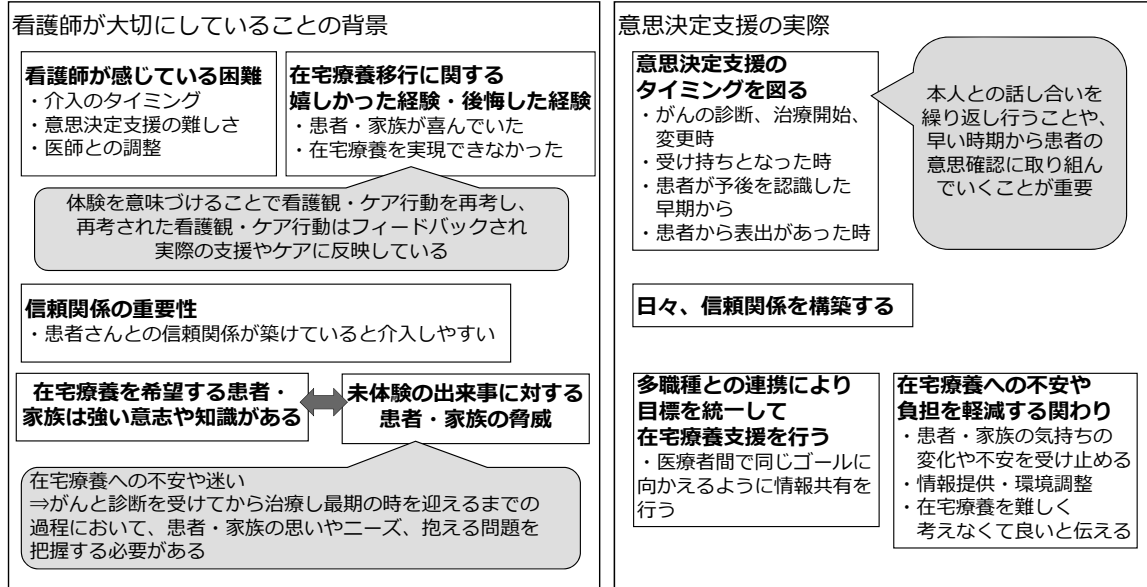
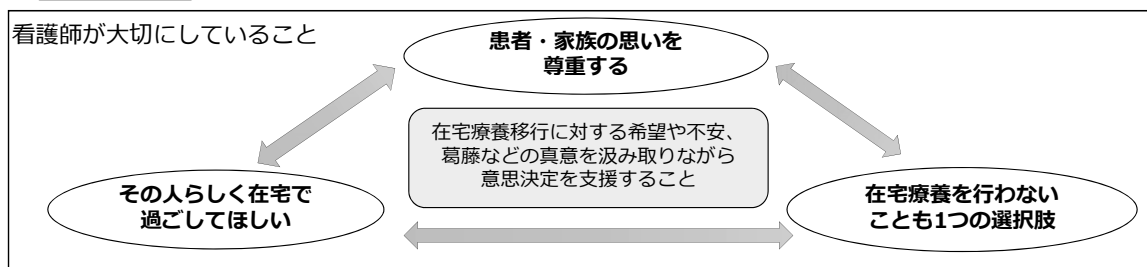
倫理的配慮

所属施設の倫理委員会の承認を得て行った。対象者の自由意思による同意を文書で取得した。また、同意後も随時同意の撤回ができ、撤回による不利益を受けないものとした。

結果

67のコード、26のサブカテゴリー、12のカテゴリーが抽出された。

考察



結論

1. 在宅療養移行へ向けた意思決定支援において看護師は、【患者・家族の思いを尊重する】ことを大切に、【その人らしく在宅で過ごしてほしい】という思いを持ち、【日々、信頼関係を構築する】【多職種との連携により目標を統一して在宅療養支援を行う】【意思決定支援のタイミングを図る】【在宅療養への不安や負担を軽減する関わり】を実践していた。

その背景には【看護師が感じている困難】や【在宅療養移行に関する嬉しかった・後悔した経験】があり、そこから積み重ねてきた学びや看護観がケアに活かされていた。

2. 看護師は在宅療養に対して肯定的なイメージを持っているが、【患者・家族の思いを尊重する】ことを意識して介入していく中で【在宅療養を行わないことも一つの選択肢】となり得ることも踏まえ、患者・家族の思いを見極めながら意思決定支援を行っていた。

本演題発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。